

# 金山山行記録



目的地	金山	期 日	平成19年10月21日(日):前夜現地入り
山行人	笠原正雄・澄子	特 記	山頂は初雪、中腹は紅葉盛り。

地点名	(着)～(発)		記 事
与板(前日発)	午後5:00発		曾地峠から柏崎ICへ。糸魚川経由、梅池高原のスキー宿に素泊まり。20室以上の宿は我々のみ。梅池温泉に入浴。翌朝はフロントガラスが凍る。
金山登山口	7:15歩き出し	晴	小谷温泉口交差点から16km。自宅から175km。単独先行男2人。一人は子犬を抱いて歩く。コケ採りの高年夫婦も登る。もう一台来た。
笹に霜	7:55	〃	樹林帯から喬木帯の登りへ、道脇の笹に霜が降り始める。
水場	8:05	〃	小広場の左側に塩ビ管から僅かに水が出ている。
ブナタテ尾根	8:15	〃	地図では尾根に上がっていることになるが、明瞭では無かった。ここに来てようやく尾根に沿っていることが分かる。樹間の左に雨飾、雪は着いていないが白いものが混じる。吹く風が冷たい。2分後瀧沢に下りる。ミズバショウの大きな葉が残る。急な登りを上げれば少し尾根が明瞭になる。
カップ上衣着用	8:30	〃	立ち休み。右手に妙高が見えて来た。その左の火打は雲が覆っている。
沢中を進む	8:40	〃	ゴロ石のV字の沢、ベンキマークと赤布がある。これが無ければ道を間違えたと思うであろう。沢が開け始めて来た所で茂倉尾根からの幕宮縦走夫婦とスライド。金山山頂での夜は降雪があったと聞く。登路が斑雪となり始める。
H1948下ザラ地	9:10～9:20	〃	一度樹林を抜けて展望開ける。左に白い北アルプスが見える。雲が掛かっている火打から妙高方向になだらかな斜面が下っている。妙高の頂に雲が流れる。
車道が見えた	9:55	〃	樹林が切れて動く車も見える。乙見湖も大きく見えて来た。紅葉と高木の樹氷が混在する景色だ。陽があたれば暖かいがかけると寒い。登路の薄い雪に先行者の靴跡が分かるようになって来た。
樹氷となる	10:20	霧	小登降を繰り返す。脇の草木に霧氷が着いている。立止まってアンパン。
笹原へ	10:25	〃	樹林を抜け胸ほどの高さの笹、身を屈めれば風は防げる。
小さい地藏さん	10:30	〃	かわいいお顔の地藏さん。この後の天狗原山は気付かぬうちに通過する。
トラバース	10:45	〃	大きく下り、登り返しから右に傾斜する窪地のいやらしい斜面を過ぎ、沢状の登りに入る。ガスが展望を遮る。草灌木の樹氷が太くなって来た。
金山山頂	11:15	〃	手前で子犬の男に追い付く。笹に囲まれた小広場、標柱は倒れていた。降雪は1～2cm程度。樹林の中の焼山への道を下ってみた。木々の雪が厚くなり、地表を隠す雪となる。すぐ戻り、ツェルトを被る。ところが、焼きうどんの予定がガスバーナーの不具合により調理出来ない。予備に持参したお握りとパン・菓子等で間に合わせる。子犬男が行ける所までと焼山方向へ進んで行った。
下山開始	12:35	晴	到着時は風が冷たく、ガスで展望が無かったが、薄日が差し、和らいできた。樹氷林越しに雨飾が見える。草木の水も解け始め、道の雪も殆んど無くなる。
小さい地藏さん	1:10通過	〃	良く晴れて来た。樹氷と紅葉に陽が当たり美しい。少し進んで前方が開けた所で地図を広げる。火打～妙高～黒姫～戸隠。
一枚脱ぐ	1:35	〃	長袖シャツの重ね着で下り始めたが、暖かくなって来て一枚を脱ぐ。
H1948下ザラ地	2:05～2:10	〃	急降下を終え、休む。陽射しが暑くなる。
水場	3:00～3:05	〃	ガスバーナーを試してみたが、やはりガスが出ない。
金山登山口	3:40～3:55	〃	笹ヶ峰を経由して帰る。乙見峠付近に紅葉見物や写真撮影の人達が居た。
火打山登山口	4:55	〃	未舗装道は紅葉真っ盛り。途中のキハダ清水で水を汲む。ここまで16km。
与板着	6:55	〃	妙高高原～西山間高速道。金山登山口から146km。

数日前に宿を予約した。越後側の午前の天気予報はやや悪かったが、長野は良かった。歩き出しは晴れていたが、登るにつれ霧の中に入って行き、樹氷や薄い雪混じりの登路となった。従って山頂に着いたときは展望も無く寒かった。しかし、下山時の午後には晴れて来て、展望も利き、樹氷と紅葉の両方を楽しむ山行となった。いつもは予備のガスバーナーを持って行くのだが、この日に限って持って行かなかった。帰路何も食べずに空腹を我慢し、山で食べるつもり野菜とベーコンの焼きうどんを帰宅してからの夕食にした。